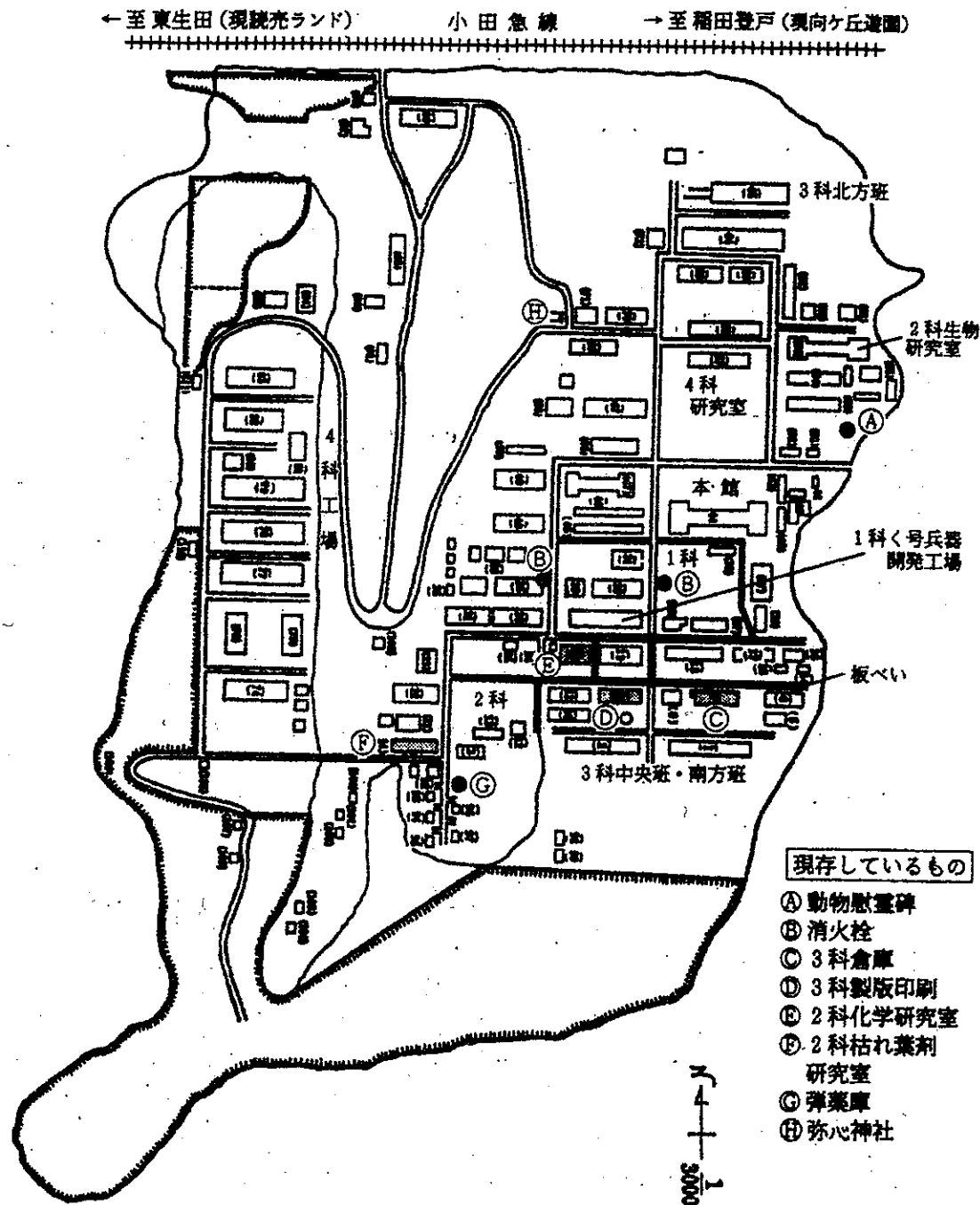


旧陸軍登戸研究所見学のおしり

旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎市民の会

渡辺 賢二



陸軍登戸研究所の建物配置図(昭和19年)

現在、明治大学生田校舎となっているが、図中に示したように、登戸研究所時代の施設が今も残っている。(原図は『川崎市多摩農業協同組合史』より。渡辺賢二氏作成)

1. 旧陸軍登戸研究所とは

1937(昭和12)年、新宿にあった陸軍科学研究所の実験場が登戸に移され電波にかんする実験研究がおこなわれた。その後、秘密・謀略戦の研究所として本格的に拡充された。陸軍参謀本部直属で、正式名称は「陸軍第9技術研究所」とされたが、軍の法規にすら記載されず、その存在は最後まで秘匿され、「登戸研究所」と俗称されていた。

「登戸研究所」の任務は、秘密戦・謀略戦にかんする研究・開発だった。毒物、細菌など生物化学兵器。紙幣の偽造。風船爆弾。憲兵隊、スパイ(特務機関員)などが使う武器・器具、などを研究・製造をした。たんなる「研究所」ではなく、数多くの地元住民もふくめ約1000人が働く巨大な秘密兵器生産工場でもあった。

2. 所在地について

11万坪にのぼる登戸研究所跡地は戦後次のような変遷をたどった。

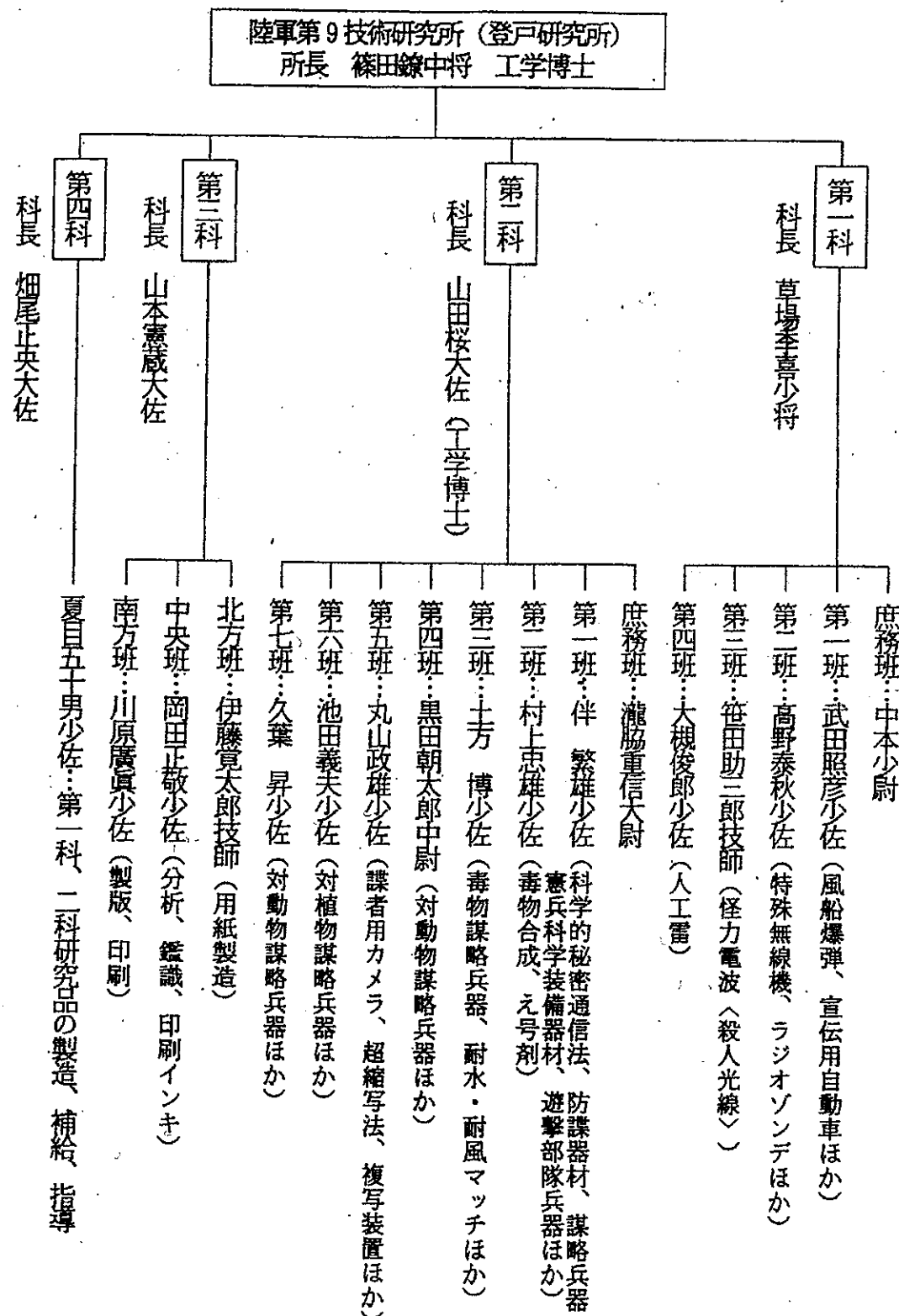
- ① 第1科が使用していた場所および第3科が偽造紙幣の研究・製造をしていた場所は、慶応大学が借用した。
 - ② 第2科が生物兵器の研究に使用していた建物は、北里研究所が借用した。
 - ③ 第3科が用紙の製造工場としていた場所は、巴川製紙が借用した。
 - ④ 第4科(第1科および第2科による研究品の製造工場など)が使用していた場所は、川崎市に返還され、国民学校、青年学校として使用された。(現在、生田中学校、青少年創作センターなど)
 - ⑤ 明治大学は、1950年(昭和25年)に上記①、②、③に相当する部分を国から購入した。現在、明治大学生田校地は、川崎市多摩区東三田1-1-1に所在する。約3万坪である。
- 以下の遺跡はこの明治大学生田校地内に存在する。

3. 動物慰霊碑

- ① 正門裏手にある。高さ3メートルほどである。

碑の裏面には「陸軍登戸研究所」「昭和十八年三月」の文字がある。碑文の書は所長の「篠田録」であることも刻まれている。

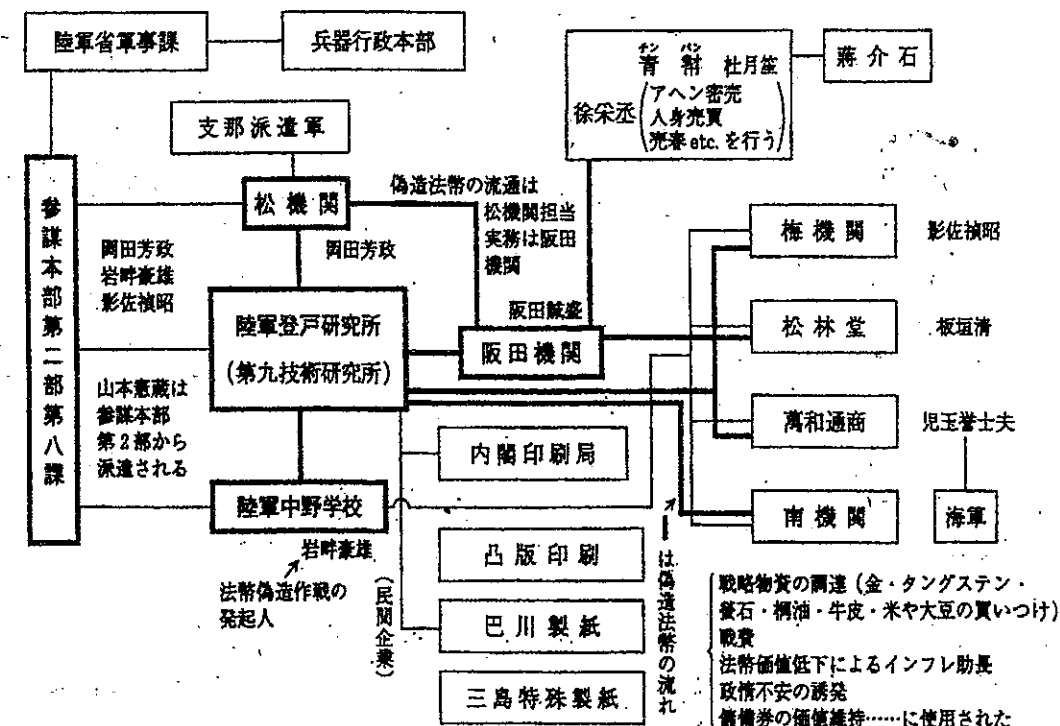
登戸研究所の組織



汪兆銘政権と偽札作戦関連年表

1938年	3月	日本円低落傾向へ 山本憲蔵が参謀本部第二部第七課（支那課）へ
	10月	参謀本部第二部第八課（謀略課）設置 課長 影佐禎昭大佐 課員 唐川安夫中佐、岩畔豪雄中佐、白井茂樹中佐
	12月	岡田芳政が参謀本部第二部第八課（謀略課）に入り、経済謀略担当
1939年	5月	汪兆銘がハノイから上海へ
	6月	汪兆銘日本へ、再び上海で新政府準備 これを支援するために「梅機関」が設置された（影佐機関）
	8月	山本憲蔵が登戸研究所第三科科长に 偽造紙幣工作体制作られる
1940年	10月	支那派遣軍（綏軍）編成 岡田は参謀として南京へ
	1月28日	上海に「松機関」設置（阪田誠盛を責任者に）
	3月30日	汪兆銘政権誕生
1941年	5月頃	中央儲備銀行設立
	5月22日	清郷委員会設置、7月から工作開始
	12月8日	第28軍 香港占領
1942年	4月	登戸研究所勤務員 香港から印刷版と輪転機持ち帰る 実際の原版を使つての偽造紙幣工作開始
1943年	11月～	政府が清郷工作の失敗把握 大東亜会議（汪兆銘参加）

登戸研究所第3科に見る「杉工作」（贋幣作戦）関係図（略図）



注）「陸軍贋幣作戦」などより作成。